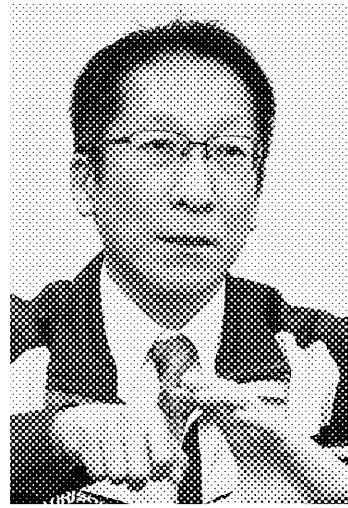


水素対応ポンプ加速

西島製作所は2024年度に持ち株会社体制への移行を目指す。そのため4月に最高経営責任者（CEO）と最高執行責任者（COO）を新設、経営監督と執行を分離した。新体制で国内営業や技術開発を統括する羽牟幸一郎新COOに今後の展望を聞いた。

―主力事業である大勝敗を分ける。西島製
型ポンプのかじ取りを 作所は20年前から高効
任されました。 率のポンプを開発し省
「国内のマーケット エネ活動をしている
はこれまで火力発電所 が、(脱炭素対応を)
が強かった。石炭や液 さらに推し進める必要
化天然ガス(LNG) がある」
のシェアは、バイオマ ―新燃料対応をどの
スに置き換わりつつあ ように進めていきます
る今もお高いが、い か。
ずれ縮小するのは間違 「水素社会がやって
いない。新たなニーズ きてから開発したので
に對しただけ早く開 は間に合わない。社会
発し製品化できるかが のニーズに先んじて開

西島製作所COO 羽牟 幸一郎氏



発すること、国の政 技術に持ち、水素向け
策の一翼を担うことが にも生かせる。24年度
できる。数千万円を投 中には(製品として)
して国内に試験設備を 形にしたい」
設け、23年度中に水素 ―水素ポンプをどの
発電所向けポンプの実 ように事業化していき
液試験を行う。当社は ますか。
(流体を) 大量に輸送 「水素へのエネルギー
する遠心ポンプをコア ―転換が起きた場合、

設備を新設、実液試験

非常に巨大なマーケッ 非常に大きなマーケッ
トができる。そこ へ最初に参入し、西島
のポンプが世界で使わ れるようにしたい。当
社は海水から真水を作
る海水淡水化プラント
のポンプにおいて世界
一のシェアを誇る。水
素は真水を原料として
おり、淡水化ポンプ事
業と親和性が非常に高
い。西島が作った水か
ら製造した水素を、新
開発のポンプで運びた
い」
―海外展望は。
「ウクライナ戦争の

がい向けポンプ関連
で) 投資や開発の余地
がある。ケミカルプラ
ント向けにも高効率ポ
ンプを投入し差別化し
影響もあり、アフリカ
ではリスク回避のため
食糧を増産し自給率を
上げる動きがある。そ
うしたところに(かん
速する」

新体制、問われる手腕

記者の目

二酸化炭素(CO₂)を排出
しないクリーンエネルギーとし
て注目される水素。水素発電の
主要部品として開発競争が加速
しているのが液体水素昇圧ポン
プだ。約253度Cの液体水
素をロスなく送り出すポンプの
開発は商用運転の成功を左右する重要プロ
ジェクト。西島製作所は新体制でこの難局
に挑む。
(大阪・大川藍)